

御蔵島におけるインドクジャクの記録

佐藤大樹

森林総合研究所 〒305-8687 茨城県つくば市松の里1番地 hirokis@ffpri.affrc.go.jp

島嶼では日本産の生物も含め外来生物に対する視点が生態系保全のために必要である。昨今、八重山諸島や宮古諸島などにおいてインドクジャク (*Pavo cristatus*) が定着し農作物や在来生物への被害が懸念される事例が認められる (田中・嵩原 2003; 亘・権田 2018)。筆者はかつて御蔵島を訪れたときにインドクジャクを目撃したことがあるのでかなり時間が経過しているが記録として報告することとした。

1989年8月、筆者は観光のために御蔵島を訪れた。徒歩で散策していたところ、インドクジャクのつがいに遭遇し写真を撮影した (図1)。ポリタンクの大きさから推定して雄の体長は100 cm程度であると考えられた。撮影場所の記憶は定かではないが、背景がのり面らしい事、ポリタンクやバッテリーなどから人里からはそれほど離れていない場所だと推察される。

以後、御蔵島を訪れる機会は数回あったが再び見ることはなく、今も情報はないことから、定着はしなかったものと考えられる。



図1. インドクジャクのつがい 1989年8月 左:メス, 右:オス.

文献

- 田中聡・嵩原建二. 2003. 先島諸島における野生化したインドクジャクの分布と現状について. 沖縄県立博物館紀要. 29:19-24.
- 亘悠哉・権田雅之. 2018. 宮古諸島における外来種インドクジャク的生活環と生息状況. 沖縄生物学会第 55 回大会プログラム・講演要旨集.